

March 19, 2020

【前日の為替概況】ドル全面高、対円 108.65 円、対ユーロ 1.0802ドル、対ポンド 1.1453ドル

18日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は108.08円と前営業日NY終値(107.70円)と比べて38銭程度のドル高水準。新型コロナウイルスの世界的なまん延を受けた金融市場の混乱で、投資家のリスク回避姿勢や信用収縮が強まっており、資産の現金化に伴うドル需要が高まった。市場では「新型コロナウイルス感染拡大を背景に、流動性の高い金融資産としてドルを確保する動きが続いている」との声が聞かれ、108.65円まで上昇した。ダウ平均は一時2300ドルを越す急落となり、今月4回目となる「サーキット・ブレーカー(取引を一時停止)」を発動。英国の株価指数は4.05%安、ドイツは5.56%安、スペインは3.44%安となるなど、世界の株式相場が大幅下落した。

WTI原油先物価格が24%を越す大暴落となったことを受けて、産油国通貨は大きく売られた。ノルウェークローネは対ドルで11.9572クローネ、対円で9.32円、メキシコペソも対ドルで24.1178ペソ、対円で4.46円と過去最安値を更新した。

ユーロドルは続落。終値は1.0915ドルと前営業日NY終値(1.0997ドル)と比べて0.0082ドル程度のユーロ安水準。資産現金化の流れが続きユーロ安・ドル高が一段と進み、1.0802ドルまで下落した。

ポンドドルは「英国と欧州連合・米国との通商交渉が難航する」との予想が多く聞かれる中、ドル全面高となった流れに沿って1.1453ドルと1985年3月以来35年ぶりの安値を更新した。

主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時101.74と2017年3月以来3年ぶりの高値を更新した。市場関係者からは「投資家の不安感が著しく高まり、金融資産を売って現金を確保する動きが活発化。安全資産の米国債や金すら売られ、ドルが急上昇した」との声が聞かれた。

ユーロ円は3日続落。終値は117.96円と前営業日NY終値(118.44円)と比べて48銭程度のユーロ安水準。米国株安に伴う売りが出たほか、原油価格の急落を受けて円高・資源国通貨安が進んだ流れに沿い、116.90円まで下落した。ドル円が上昇した影響も受けたため引けにかけては118.00円付近まで反発。

【本日の東京為替見通し】12兆ドルのマージン・コール(追証)でドル全面高へ

本日の東京市場のドル円は、世界的なりセッション(景気後退)懸念による世界同時株安を受けたドルの流動性確保の動きを受けて堅調推移が予想される。

世界最大の米株式・債券市場、原油市場、金市場の下落を受けて、12兆ドル規模のマージン・コール(追証)が発生していると言われており、ドルの流動性確保の動き、ドル需要が高まりつつあり、ドルは全面高の様相を呈し始めている。

新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)宣言を受けたダウ平均の下落は、米連邦準備理事会(FRB)による金融緩和、利下げ(▲1.00%)と量的緩和(7000億ドル)やトランプ米政権による1.2兆ドル規模の景気刺激策にも関わらず歯止めが利かない状態となっている。

ダウ平均は、2017年1月25日にトランプ第45代米大統領誕生を祝して20000ドルに乗せ、2020年2月12日高値29568.57ドルまで約37カ月で9568ドル上昇したものの、1カ月後の3月17日には20000ドルを割り込み、トランプ大統領の経済的功績を打ち消した。相場格言「上げ100日、下げ3日」の比率3%通りに、「上げ1114日、下げ34日」だった。

昨日は、原油市場も暴落し、安全資産でもある米国債市場や金市場も下落しており、12兆ドルのマージン・コール(追証)発生による、パニック的なドルの争奪戦となっている。

本日は、米系ヘッジファンド勢による日本株売り・円売りが予想されることで、ドル円は堅調推移が見込まれ、本邦機関投資家などによる3月の期末決算に向けたレパトリエーション(海外資産売り・円買い)との攻防が予想される。豪準備銀行(RBA)の金融緩和を受けた豪ドル/円の動向にも要警戒か。

ドル円のテクニカル分析では、200日移動平均線108.25円や一目均衡表・雲の下限108.97円が抵抗帯として上値を抑えている。

また、円売りに拍車がかかると警戒されている日銀の上場投資信託(ETF)評価損による債務超過となる日経平均株価水準は、13000円付近となる。本日は、2008年リーマンショック後の株価純資産倍率(PBR)の0.81倍水準16800円を下回り、1973年の列島改造バブル崩壊時の下落率37.5%の15072円処を窺う展開となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 2月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比0.6%）
- 08:30 ☆ 2月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比0.7%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 08:50 ☆ 1月20-21日分の日銀金融政策決定会合議事要旨
- 13:30 ◇ 1月全産業活動指数（予想：前月比0.3%）

<海外>

- 09:30 ◎ 2月豪雇用統計（予想：失業率5.3%／新規雇用者数1.00万人）
- 12:30 ◎ 豪準備銀行（RBA）、金融政策措置を発表
- 14:00 ◎ ロウRBA 総裁、講演
- 17:30 ☆ スイス国立銀行（中央銀行）、政策金利発表（予想：▲0.75%で据え置き）
- 18:00 ◎ 3月独 Ifo 企業景況感指数
- 19:00 ◇ 1月ユーロ圏建設支出
- 21:30 ◎ 10-12月期米経常収支（予想：1090億ドルの赤字）
- 21:30 ◎ 3月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数（予想：10.0）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：22.0万件／172.5万人）
- 23:00 ◎ 2月米景気先行指標総合指数（予想：前月比0.1%）
- 未定 ☆ 南アフリカ準備銀行（SARB）、政策金利発表（予想：5.75%に引き下げ）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

18 日 05:37 ポスティブ米アトランタ連銀総裁

「リセッションは避けられそうな気がする」

「今のところ企業がレイオフをしたとは聞いていない」

「FRB の行動は現状できる最大限の刺激策を示すことだった」

18 日 07:19 モリソン豪首相

「すべての国民に海外へ渡航しないよう伝える」

「人体の緊急事態を宣言する」

「新型肺炎を巡る状況は 6 カ月かそれ以上続く可能性」

18 日 10:35 麻生財務相

「国民への現金給付は今ただちに検討していない」

「実物経済においてリーマンショック時と同じようなことが起きているかもしれない」

18 日 11:45 黒田日銀総裁

「上場投資信託(ETF)の増額は、欧米に比べて株変動が抑制されており一定の効果」

「ETF は当面従来の倍ペースで買い入れ行う」

「グローバルに投資家センチメントが悪化しており、市場は不安定」

「ETF 買入れなければ、さらなるリスクプレミアム拡大の可能性」

「ETF 買入は、株価を支えるためではない。全体の金融緩和政策の一環として一定の効果」

「保有 ETF の現時点での含み損は、2~3 兆円」

「世界的にリスク資産から、国債・現金が選好されている」

18 日 13:11 オア NZ 準備銀行(RBNZ)総裁

「NZ ドルは適正水準よりやや低いが、景気刺激効果がある」

「NZ ドルはよく動いている」

18 日 14:26 ホルツマン・オーストリア中銀総裁

「金融政策は限界に達している」

18 日 16:56

「金融政策は限界に達してはいない」

18 日 16:38 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

「今回の危機は 2008 年のものとは違い、一時的である可能性」

「ECB はあらゆる措置を適時に調整する用意がある」

18 日 22:02 ベイリー英中銀(BOE)新総裁

「経済支援のために必要な措置を講じる」

18 日 22:44 トランプ米大統領

「米国とカナダの国境を一時的に閉鎖する」

「(1950 年に朝鮮戦争をきっかけに成立した)国防生産法を発動する」

19 日 00:27 ムニューシン米財務長官

「失業率が 20%になるとは言っていない。大統領の計画に従えばそうはならない」

「新型コロナウイルスを克服すれば、米国経済は大きく回復する」

「私たちの優先事項は中小企業」

「流動性を必要とする企業が存在すれば支援する」

19 日 00:44 モルノー加財務相

「カナダにおける新型コロナウイルスの影響は深刻」

「第一段階の対応として、270 億カナダドルを支出する」

「本日発表されたウイルス対策措置は、政府の計画の第 1 段階」

19 日 00:50 クオモ NY 州知事

「NY 州での新型コロナウイルス感染、前日から 1008 人増の 2382 人」

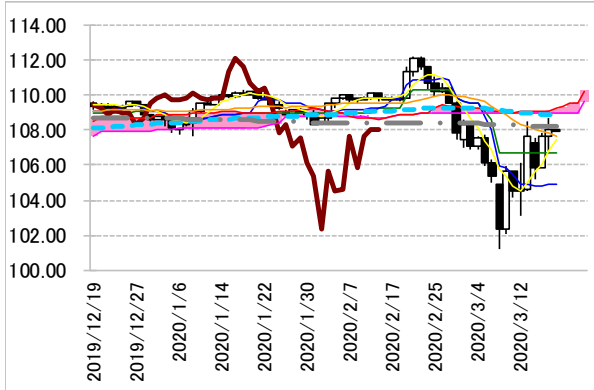
「NY 州での新型コロナウイルス感染による死亡者 20 名」

19 日 04:24 ルメール仏財務相

「ECB は直ちに大規模介入を行うべき」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

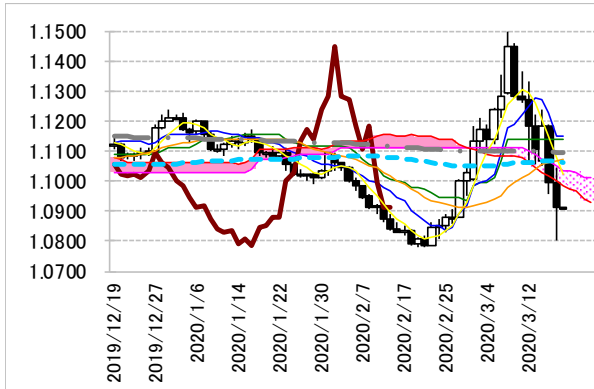


<ドル円=5日移動平均線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。毛抜き天井(112.23円・112.19円)から101.19円まで下落後108.65円まで反発したものの雲が上値を抑えている。しかし、16日の陰線を抱き線、2手連続陽線で切り返しており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、5日移動平均線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.26(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	108.97(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	108.08
サポート 1	107.46(5日移動平均線)
サポート 2	106.71(日足一目均衡表・基準線)

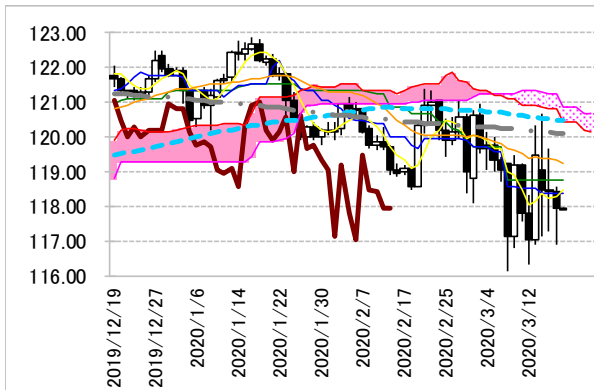


<ユーロドル=雲の上限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回っているものの、一目・雲の下、転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。

本日は、雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1037(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	1.0915
サポート 1	1.0778(2/20 安値)

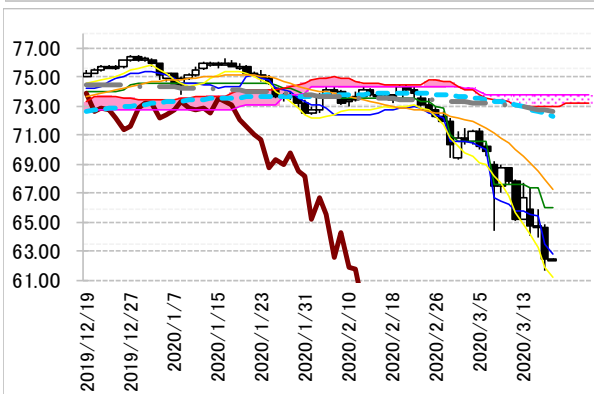


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陰線で続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	118.39(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	117.95
サポート 1	116.90(3/18 安値)



<豪ドル円=5日移動平均線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、5日移動平均線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	64.17(5日移動平均線)
前日終値	62.41
サポート 1	61.69(3/18 安値)

